

外研

日语分级读库



にほんご よむよむ文庫

Vol.2 1 8

笠地蔵

かさ

じ

そう



日本NPO法人 日本語多読研究会 主编

近藤 真须子 (日) 改编

鯉江 光二 (日) 插图

外研

日语分级读库



にほんご よむよむ文庫

Vol.2 1 8

かさ じ そう
笠地蔵

日本NPO法人 日本語多読研究会 主编

近藤 真须子（日） 改编

鯉江 光二（日）插图

外语教学与研究出版社
北京

京权图字：01-2008-1941

© Originally Published by ASK Publishing Co., Ltd., Tokyo Japan

图书在版编目(CIP)数据

外研日语分级读库. Vol. 2. 1 ⑧ / 日本NPO法人日本语多读研究会主编. — 北京: 外语教学与研究出版社, 2009. 1

ISBN 978-7-5600-8120-5

I. 外… II. 日… III. 日语—语言读物 IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2009) 第 006907 号

出 版 人: 于春迟

责任编辑: 刘 军

装帧设计: 王 军

出版发行: 外语教学与研究出版社

社 址: 北京市西三环北路 19 号 (100089)

网 址: <http://www.fltrp.com>

印 刷: 北京国邦印刷有限责任公司

开 本: 880×1230 1/32

印 张: 0.875

版 次: 2009 年 2 月第 1 版 2009 年 2 月第 1 次印刷

书 号: ISBN 978-7-5600-8120-5

定 价: 27.90 元 (全五册)

* * *

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换

制售盗版必究 举报查实奖励

版权保护办公室举报电话: (010)88817519

物料号: 181200001

日本語を勉強しているみなさんへ

「にほんごよむよむ文庫」は、

日本語を勉強しているみなさんのための「読みもの」シリーズです。

楽しみながらたくさん読んでください。

やさしいものからたくさん読むと、知らないうちに漢字の読み方や言葉が身につきます。

読んだ話をCDでも聴いてみてください。読みながら聴いてもいいでしょう。

目からも耳からもどんどん日本語を吸収しましょう！

「にほんごよむよむ文庫」4つのルール

- 1 やさしいレベルから読む。
- 2 辞書を引かないで読む。
- 3 わからないところは飛ばして読む。
- 4 進まなくなったら、他の本を読む。

あるところ^に、おじいさんとおばあさんがいました。

二人^{ふたり}は、お金^{かね}がありませんでした。明日^{あした}は、お正月^{しょうがつ}（二月一日^{いちがついついち}）です。

おばあさんが言^いいました。

「おじいさん、明日^{あした}はお正月^{しょうがつ}ですから、おいしい食^たべ物^{もの}を食^たべたいですね」

おじいさんが答^{こた}えました。

「そうですね……」。

おばあさん、笠^{かさ}を作^{つく}りましょう。そして、それを売^うりましょう」

おじいさんとおばあさんは、笠^{かさ}を五^{いっ}つ作^{つく}りました。



おじいさんは、町へ行きます。外は雪です。

おじいさんは、一時間ぐらい歩きました。

道のそばに、石の地蔵が六つありました。

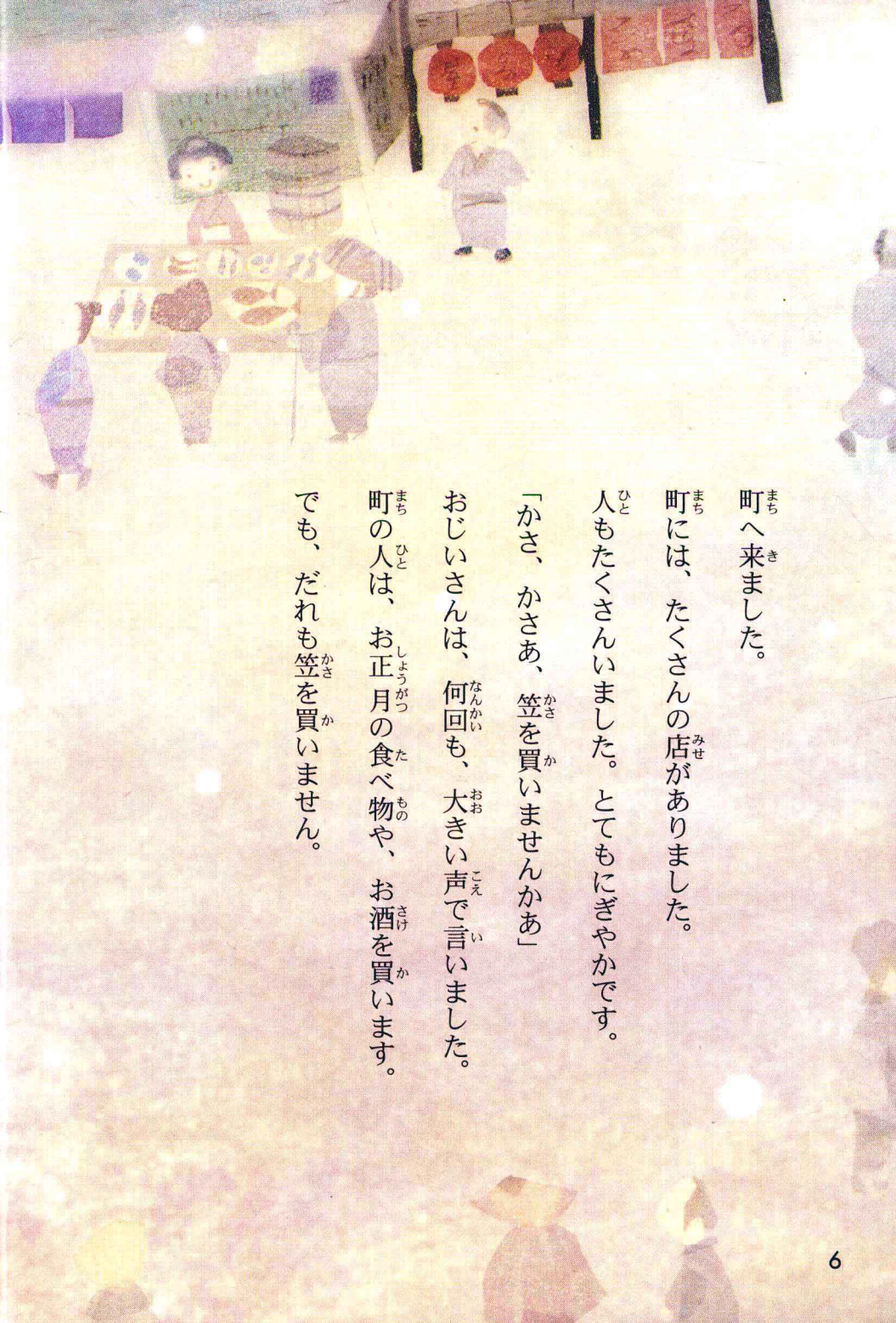
おじいさんは、地蔵の前で言いました。

「お地蔵さま、いつもありがとうございます」

おじいさんは、また歩きました。







まちへ来ました。

町には、たくさんの店がありました。

人もたくさんいました。とてもにぎやかです。

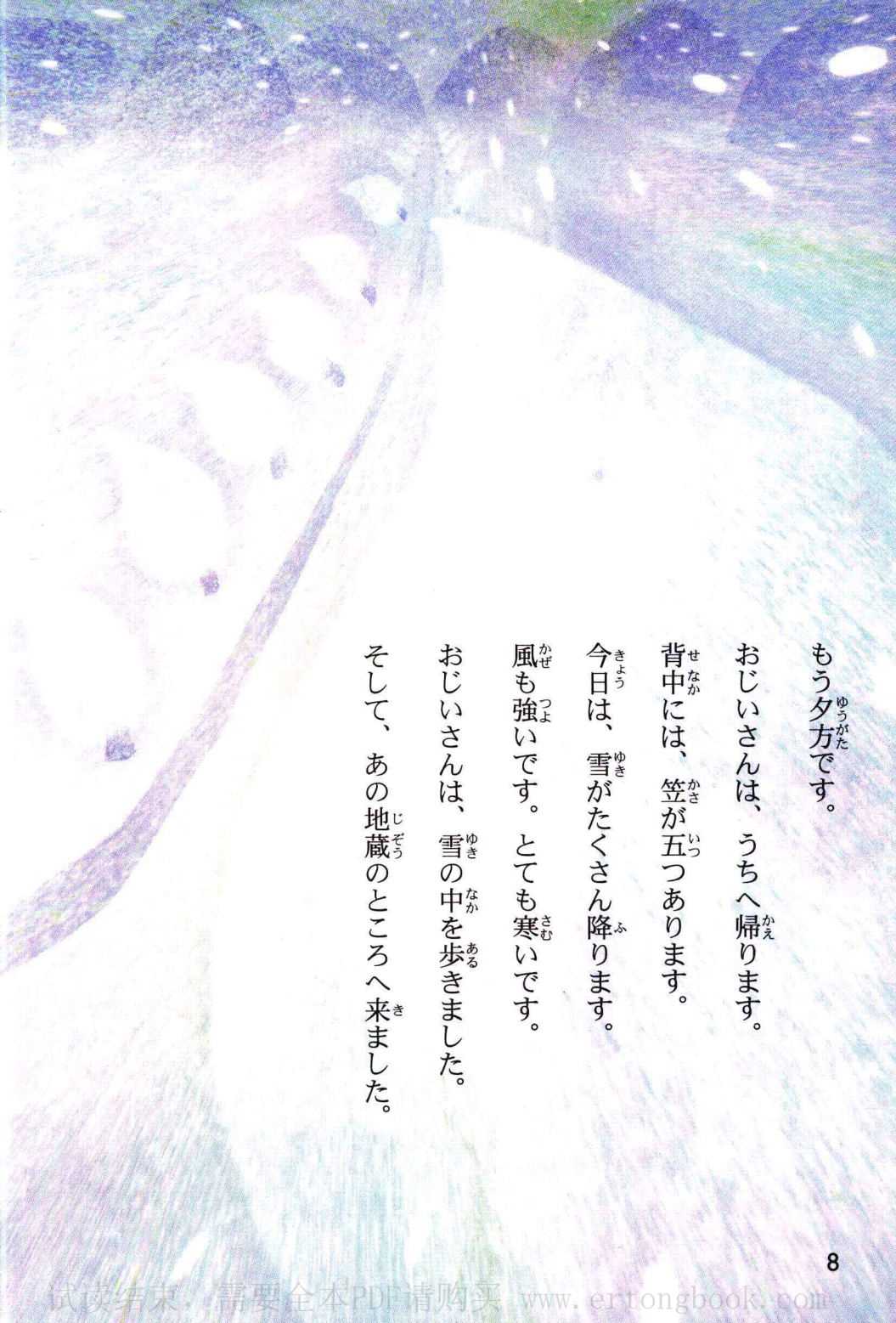
「かさ、かさあ、笠を買いませんかあ」

おじいさんは、何回も、大きい声で言いました。

町の人は、お正月の食べ物や、お酒を買いいます。

でも、だれも笠を買いしません。





もう夕方^{ゆうがた}です。

おじいさんは、うちへ帰^{かえ}ります。

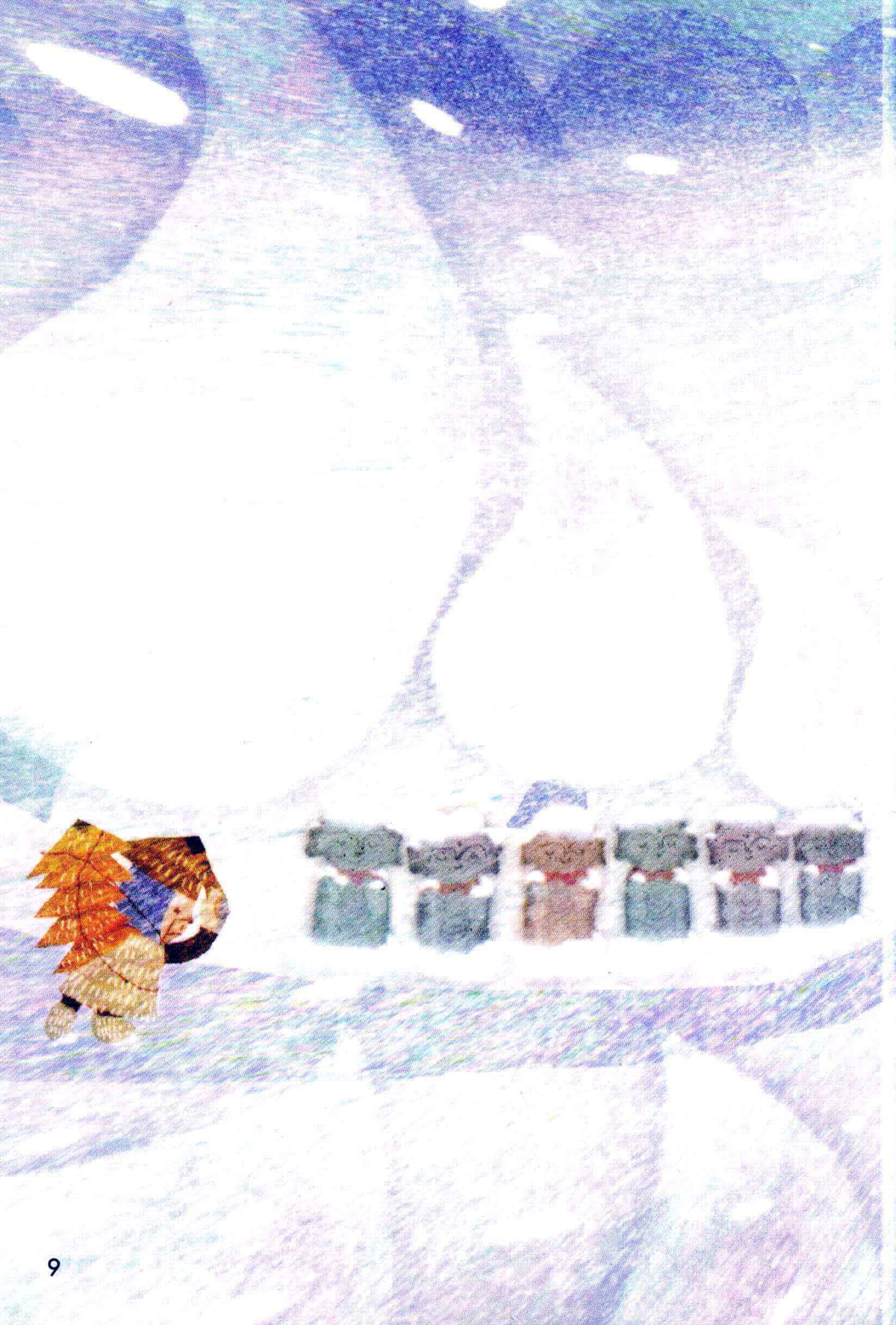
背^せ中^{なか}には、笠^{かさ}が五^{いつ}つあります。

今日^{きょう}は、雪^{ゆき}がたくさん降^ふります。

風^{かぜ}も強^{つよ}いです。とても寒^{さむ}いです。

おじいさんは、雪^{ゆき}の中^{なか}を歩^{ある}きました。

そして、あ^あの地蔵^{じぞう}のところへ来^きました。



おじいさんは言いました。

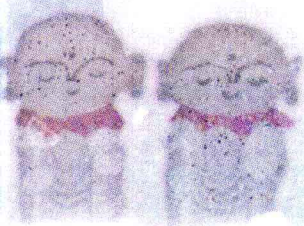
「あ、お地蔵さまの頭や体に雪が……。冷たいでしょう。寒いでしょう」

そして、地蔵の頭や体の雪をとりました。

「そうだ！ この笠をあげましょう」

おじいさんは、背中の笠を下に置きました。

そして、地蔵の頭に、笠を一つ一つかぶせました。







「あれ、困こまりましたねえ」

笠かさは五いつつです。でも、地蔵じぞうは六むっつです。

「どうしましょう……。そうだ、私わたしの笠かさをあげましょう」

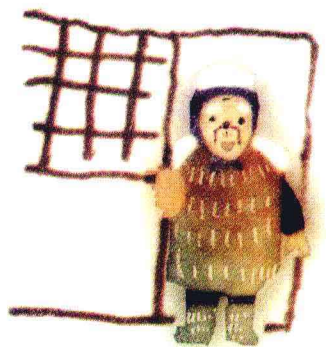
おじいさんは、自分じぶんの笠かさをとりました。

そして、その笠かさを、地蔵じぞうの頭あたまにかぶせました。

六むっつの地蔵じぞうの頭あたまには、全部ぜんぶ笠かさがあります。

「これでいい。これでいい」

おじいさんは笑わらいました。



おじいさんは、うちへ帰りました。

「ただいま」

「お帰りなさい。

まあ、頭に雪がたくさん。

寒かったですう」

「今日は、だれも笠を買いませんでしたよ。
ですから、お正月の食べ物はありません」